

建交労北海道本部第19回定期大会

安倍9条改憲を許さない！ 要求闘争と組織拡大の前進を

10月14～15日、建交労北海道本部第19回定期大会を北広島市で開催し、2018年度運動方針などを満場一致で決定しました。大会には執行部・代議員・傍聴者など66人が参加し、2日間にわたって活発な討論がおこなわれました。

来年の選挙は安倍政治を終わらせるチャンス

大会1日目、道本部の森国委員長は「9月6日の胆振東部地震で大きな被害があったが、なぜブラックアウトがおきたのか検証が必要だ。6月に北海道で開かれた建交労フェスタを全道の組合員力で成功させ、各支部・業種で組合員を拡大してきた。改ざん・隠ぺいなど安倍政権の暴走は国会と国民を冒涇するものであり、さらに憲法改悪案を臨時国会に提出しようとしているが断じて認めるわけにいかない。格差が拡大し、労働者の実質賃金が低下している。消費税増税をストップさせなければならない。沖縄県知事選挙での勝利に続いて、来年の統一地方選挙と参議院選挙は安倍政治を終わらせる絶好のチャンスだ」とあいさつしました。

ビジョンを持ち建交労の総合力でたたかおう

道労連・三上友衛議長、日本共産党・佐野弘美道議会議員からの来賓あいさつに続いて、中央本部の角田季代子委員長は「建交労の課題は実利をかちとって組織の拡大・強化につなげることにあつた。そのために、建設産業や運輸産業のビジョンを持って新しい政治をめざそう。各業種部会と地域がタテとヨコの糸になり、建交労の総合力でたたかいをすすめよう」と強調しました。

道本部を構成する各業種・分野からの発言

提案された議案にもとづく討論では、改憲を許さない3000万人署名のとりくみをはじめ、建交労道本部を構成する各業種・分野にわたる発言が続きました。高齢者を安上がりに使うJR北海道の実態と組織拡大・機関誌拡大にむけた決意、「自動運転」などトラック産業での新たな動きと職場での組合員拡大、現場調査で明らかになった建設労働者の実態と行政や業界にむけたとりくみ、「無期雇用」転換などの要求にもとづく組織拡大、指導員の組織化をめざす道南での「学童保育総がかり」のとりくみ、労災職業病部会の「健康相談会」や組合員の紹介による新規認定のとりくみなど、要求の前進と強大な建交労をめざす決意が示されました。

新年度役員を選出 書記次長に宮澤さん

大会では新年度役員選挙をおこない、森国委員長などを再選するとともに、新しく書記次長に宮澤毅さんが選ばれました。